

hap·py

→ go

→ luck·y

【ハッピー・ゴー・ラッキー】

形 〈人の行動が〉のんきな、気楽な。

名 10代におくるブックガイド。

はぴ 61 号

2023年11月発行

【編集】はぴ編集委員会

【発行】さいたま市立中央図書館
浦和区東高砂町11-1

TEL 048-871-2100

FAX 048-884-5500

<https://www.lib.city.saitama.jp/>

読み取りは
コチラ



基地



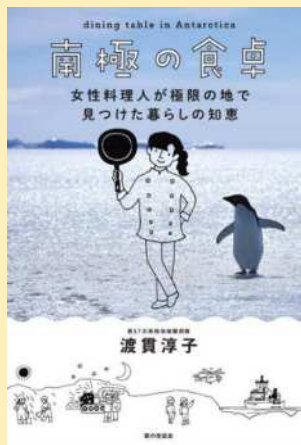
ヲ読ム

南極の食卓 女性料理人が極限の地で見つけた暮らしの知恵
渡貫 淳子／作 家の光協会 2023年

日本から14,000kmも離れた極寒の地、南極。昭和基地では現在も大勢の隊員が南極観測をしています。

およそ1年2か月の過酷な暮らしの中で、お楽しみと言えばやっぱり食事。厨房を任されている二人にとっては実力の見せ所。基地内でトマトを育ててみたり、氷上を掘って外で流しそうめんをしてみたりと、あの手この手を使うのです。

調理担当の目を通した語りと豊富な写真。基地での日々が手に取るように分かります。



絵本作家61人のアトリエと道具
玄光社 2017年

小さいころ読んだあの絵本。どんな場所で生まれたか知っていますか？

作家それぞれのこだわりあふれるアトリエとともに、代表作を写真付きで紹介。机、画材、本棚、窓から見える風景など、お気に入りのつめこまれた個性鮮やかな活動拠点。のぞいてみたら、また絵本が読みたくなりますね。



世界の不思議な図書館

アレックス・ジョンソン／作 北川 玲／訳
創元社 2016年

図書館がラクダに乗ってやってくる！？ 自由な発想で本と人をつなぐ、世界の図書館は不思議がいっぱい。ガラスと金属を組み合わせてつくった宮殿のような建物や、電話ボックスを本棚として利用した小さなスペースなど、89か所の個性的なライブラリーを紹介。木の上、海、道端。本と出会う場所は案外身近にあるのかも。



My Room 天井から覗く世界のリアル
John Thackwray／作 ライツ社 2018年



部屋の住人が画面の真ん中で天井を見上げてにっこりと微笑んでいる。多様な柄の布が敷き詰められた部屋、趣味のグッズに囲まれた部屋、ベッドしかない部屋……。生い立ちや思想が見えてきて句いまで感じられそう。この写真集は世界各国の若者を同じアングルで撮影し、インタビューを行った記録である。

明るい夜に出かけて

佐藤 多佳子／作 新潮文庫 2019年

大学を休学し、コンビニで深夜バイトを続けている富山。火水木と土日の夜にシフトを入れ、金曜の夜は絶対休む。アルコール＆ピースの深夜ラジオを聴くために。そしてある夜、いつもと同じ勤務時間を過ごしていると、小柄な少女が立ち読みを終えて栄養ドリンクを手にとってきた。彼女のリュックに2個の「カンバーバッジ」がついているのを見つけて、富山は思わず話しかけてしまう。ラジオを通じて繋がった彼らの毎日が変わり始めた。



家をせおって歩く かんぜん版

村上 慧／作 福音館書店 2019年



表紙のイラスト、小屋から足がはみ出していて、ちょっと不思議ですね。これは作者の村上さんの家です。

村上さんは発泡スチロールで作った自分専用の家を担いで、どこまでもずんずん歩いて行きます。そして気に入った場所に家を設置。その姿はまるでヤドカリで、時には外国に行くことも。

だからこの本は旅の記録じゃなくて言えば日記。非日常の日常に、あなたも一緒に出かけよう！

基地でなにをする？



ビブリオバトル 2023 はぴの陣

開催結果レポート

毎年恒例になった夏のイベント「ビブリオバトルはぴの陣」が7月28日に中央図書館で開催されました。今回は近年最多の6人がバトラーにエントリー、それもALL中学生という戦いでした。

どのバトラーも持ち時間の5分をぴったり使って本の魅力をスピーチ。また、質問タイムでも、返答に詰まることなく観客にアピールするというとてもレベルの高いものでした。

投票の結果

チャンプ本に選ばれたのは

『空白小説』



バトラーは、まず本の装丁の面白さについて、続けて「書き出しと結びの文が初めから決まってい、この空白の中を変えるだけで物語が広がっていく。3人の著者によって書かれていて、それぞれの世界観を楽しむことができる。」と語り、見事観客の心をつかみました！

『空白小説 書き出しと結びが決まっているショートショート』
うじ た ゆうすけ 氏田雄介／作 こぎつね ゆうすけ 小狐裕介／作 みずたに けんご 水谷健吾／作 ワニブックス
2022年

子どもだけの解放区を作ろう

▶ 『ぼくらの七日間戦争』 そうだ おさむ 宗田理／作 角川つばさ文庫 2009年

散りばめられたフラグが、パズルのピースのように重なり合う

▶ 『Another』 上・下 あやつじ ゆきと 綾辻行人／作 角川文庫 2011年

酒好き女好き薬物中毒の三拍子を持ち合わせた主人公

▶ 『人間失格』 改版 だ せい おさむ 太宰治／作 新潮文庫 2006年

食べる幸せが詰まったおいしい本

▶ 『八朔の雪』 みをつくし料理帖 I はっさく りょう り ちょう 高田郁／作 ハルキ文庫 2009年

自分の命よりも大切なものがある人に読んで欲しい

▶ 『世界から猫が消えたなら』 かわむら げん き 川村元気／作 マガジンハウス 2012年

その他に紹介されたのは

コチラ



次回 62号
テーマは



2024年3月発行です

一部書影画像はBOOK データ ASP から引用しています
このブックガイドは 1400 部作成し
1部当たりの作成費用は 5 円（概算）です